



Washington Japanese Language School
ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

2024年2月24日発行 第36号

ワシントン日本語学校

[ワシントン日本語学校事務局]

HOT LINE (301)962-7415

TEL (301)962-7410

FAX (301)962-7411



「素心深考」

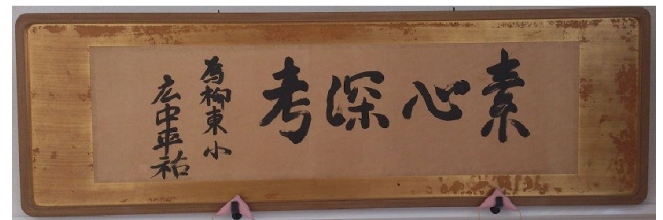
校長 三原 洋一

先週は、降雪による悪天候が予想されたため、午後からの日程で授業を実施しました。降雪量は予報よりも少なく、道路状況も大きな混雑がなく何よりでした。本年度初めての午後からの授業開始にもかかわらず、皆様のご協力のお陰で、大きな混乱もなく計画どおりに授業を進めることができました。保護者の皆様の御協力に感謝申し上げます。



さて、今回のタイトルですが、今から12年前の2012年、私が、初めて校長として採用され着任した山口県柳井市の小学校の校長室の前の廊下に、数学者であり、数学の最も権威ある賞といわれるフィールズ賞を受賞された広中平祐さんの書が写真のように飾ってありました。その状態からするとかなり古いもので、いつどのような経緯でそこにあるものなのかは分かりませんでした。広中平祐

さんが、その市のとなりの由宇町出身であることから、過去にその学校を訪問された時に書かれたものではないかと推測されます。



この「素心深考」という言葉は、本人が好んで書かれる言葉で「素朴な心に帰って深く考え直せ」という意味です。日々学びを続けている子どもたちにとって指針となる言葉です。

広中平祐さんは、幼少時、分からないことがあると何でも質問するため、母親から「なぜなぜ坊や」と呼ばれていたそうです。母親は疑問に答えられないと、「偉い人に聞けば分かるだろう」と町の医者や神主のところに平祐さんを連れて行き、答えを尋ねていたといひます。

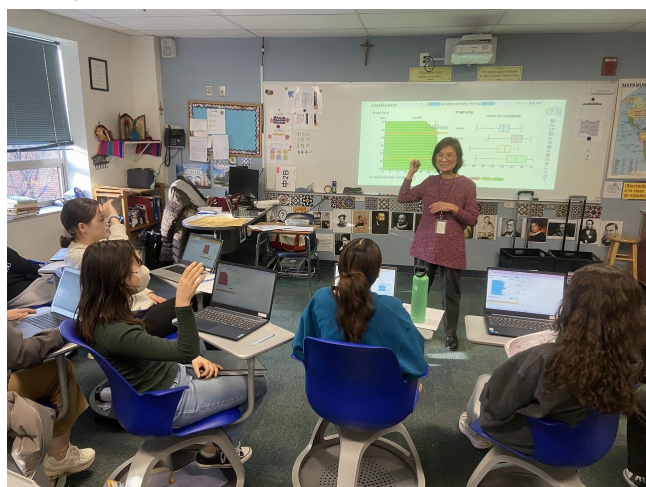
本校では、『良さを見つけて褒めて伸ばす』というスローガンのもと、一人ひとりの自己有用感を育くむ指導を充実させていますが、子どもの良さの一つは、些細なことに興味を持ち、臆せず取り組もうとする真っさらな心、まさに「素心」だと思います。我々大人は、本来子どもたちがもっている「素心」



を大切にしたいものです。

また、「深考」は、元から子どもたちに備わっているものではなく、学習や生活の中で、繰り返し思考し、判断することにより身に付くものと考えます。よって、我々教師は、日々の授業を大切にし、子どもたちが学習課題に対して深く考え解決していくような授業を展開し、一人ひとりの可能性をしっかりと伸ばしていかなければと思っています。

本年度、残りの授業日も、幼稚部は3日、小・中・高等部は4日となりました。各学年のまとめをしっかり行い、学習内容の積み残しがないように、そして、一人一人の可能性を少しでも伸ばせるよう、一日一時間を大切に充実した授業を提供するよう努めてまいります。



3月の行事予定

- 3 / 9 第3回入学説明会
転入学説明会・面接
- 3 / 16 幼稚部卒園式
- 3 / 23 小中高等部卒業式
修了日 ※特別時程

日産自動車様から童話と絵本の寄贈

昨年に引き続き、日産自動車の大井様が、事務局にお越しになり、本校に童話と絵本を1冊ずつ御寄贈していただきました。



これは、第39回「日産 童話と絵本のグランプリ」の童話の部・絵本の部それぞれの大賞作です。毎年のご寄付に感謝申し上げます。できるだけ早く登録作業を行い、子どもたちに読んでもらえるようにしたいと思います。



美化月間では、全てのクラスが合格しました！